

《湖心泛月》1963年 56歳

作家がどのような人生を歩み、年代ごとに作風がどう変遷したか等を知ること、作品の見え方や鑑賞の深さも変わります。

上條信山の書作を大別すると、30～40歳代は書風の基盤となる古典に徹しつつ師風を追い、50～60歳代はそこからの脱却と、より自分らしい書を模索した年代。70歳代以降は代表作が多数生まれた円熟期と言えましょう。

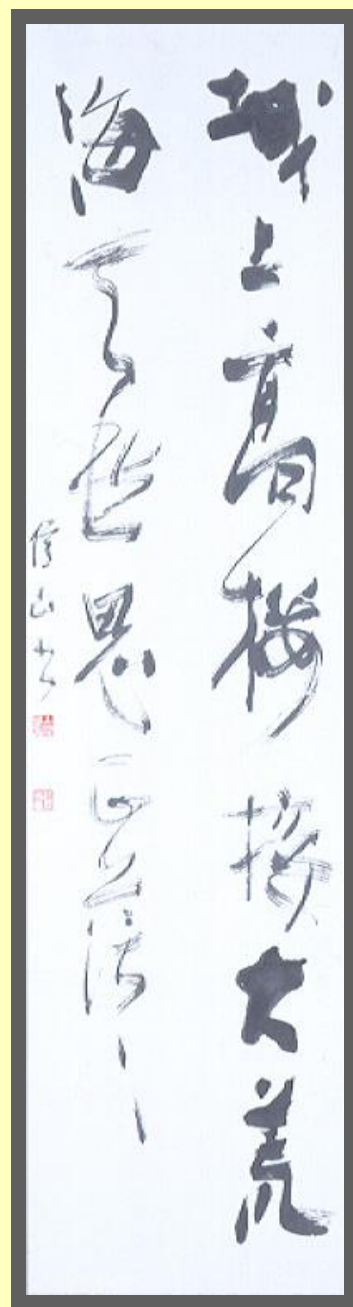
今回は、50～60歳代に制作された作品を特集します。

50歳頃から大字作品を発表し始め、60歳頃から篆書作品にも挑戦した年代。線も重厚さを増していった時期にあたります。一所に留まらず、新たな表現を追求し続けた作品の数々をご覧ください。

上條信山 50～60歳代の書



《求深》1969年 62歳



《柳宗元詩一節》1962年 55歳